



いきる・かかわる・そなえる～1年生被災地学習～

9月20日（金）、1年生が東日本大震災における津波の被災地である気仙沼・陸前高田を訪問、体験学習に取り組みました。

最初に訪れた気仙沼では、震災遺構として保存されている旧気仙沼向洋高等学校を見学、「学校」での被害の様子を目の当たりにすることで、災害の大きさ、恐ろしさを実感することができました。またご自宅やご家族をなくされた語り部の方から、当時の様子と復興の苦労についてお話を伺いました。

午後に訪れた陸前高田では、野外活動センターで一関市藤沢地域の防災マップの読み取りによる危険区域の確認や避難所の設営体験を行いました。

岩手県では東日本大震災津波で学んだ教訓を生かし、以下の教育的価値を学ぶ「復興教育」を学校教育の根幹に位置づけています。

「**いきる**」…命の大切さ、自然との共生、夢や希望の大切さ、心身の健康 など

「**かかわる**」…家族・仲間・地域とのきずな、ボランティア活動 など

「**そなえる**」…災害の様子・歴史・被害、災害発生のメカニズム、身を守り、生き抜くための技能 など

これらは必ずしも自然災害に限らず、新型コロナなど感染症やその他社会の変動を乗り越え、子どもたちがたくましく生きていく力を育んでいくために必要な学びです。この中で「かかわる」の中では、家族や地域とのきずな・つながりも重要な意義を成すものとなっておりますので、保護者の皆様にも学習の成果をご覧いただいたり、コメントを頂いたりする場面もあるかと思えます。その節には何卒ご協力をお願いいたします。（1年生の被災地での体験学習の成果は、11月の授業参観でご覧いただく予定です。）



生徒の「学習のまとめ」より抜粋

津波は電柱や鉄塔などの施設だけでなく、被災者の心まで傷つけていくものだと感じました。今まであまり家族と防災について話し合うことがなかったので、話し合おうと思いました。避難所の設営を班員と行いましたが、避難所に関わらず、生き延びていくためには助け合いが必要だと思いました。

（皆川 利佳さん）

「木が命を救う」と言っていた語り部さんの言葉が胸に響きました。自然が多い岩手県はとてもいいなと思いました。災害時に備えて、家族で情報を伝えあい、避難場所を確認しておくことが大切とわかりました。

（三浦 愛鈴さん）

実際に被災地に行ってみて、被災地でしかわからないこと、感じられないことを学ぶことができました。これから自分ができることは、みんなで助け合い、真剣に訓練を行い、万が一に備えて準備して自分たちの命を守っていくことだと思いました。

（千葉 煌玖さん）

私は今回の学習で、備えることの大切さを学びました。そのため避難するときに持っていくものを準備したり、家族と災害が起きたときのために話し合ったりしておきたいと思いました。また、もし災害がおき、避難所生活となったときは、自分の特技などを活かした何かをしたりして、避難所を明るくしたいと思いました。

（伊藤 嘉音さん）

受験について話しましょう

高校の体験入学・オープンスクールがほぼ終わり、3年生の皆さんも志望校を固めつつあるところでしょうか。いよいよ高校入試についての取り組みも本格的になってきます。しかしその一方で、先日行われた家庭学習強化週間の取組結果等を見ると、まだまだエンジンがかかっていないお子さんもいるようです。そこで改めて結果としての「高校進学」ではなく、そこに向かう取り組みとしての「受験」について述べていきたいと思います。

そもそもなぜ、高校に行くのでしょうか。岩手県では毎年約 99%以上の中3生が高校に進学します。「みんなが行くから何となく…」という理由で高校を考えているお子さんもいるかもしれません。しかし「何となく」高校に行く者は「何となく」高校生活を終え、その後の将来も「何となく」…ということにならないでしょうか。高校は義務教育ではありませんし、さまざまな特色があります。またその後の進路(大学進学、専門学校、就職 等)にもそれぞれ繋がっています。その中で高校を選ぶのですから、**その高校を第一志望として選んだ必然性(決意)を自分の中に育てて欲しい**と思います。

つまり、「入れる高校」を選ぶのではなく、あくまで「**入りたい高校**」に入るための努力を続けることが**基本**です(一般に「目標を下げた瞬間に学力の伸びも止まる。」と言われます)。

次に「受験」に親子でどう取り組んでいけば良いか。「受験」と聞くと、自分たちが受験生だった頃の経験からどうしても「辛い」とか「大変」とか、そういうイメージを持ててしまいます。しかし、「受験」は以下のような力をつけて成長する大きなチャンスでもあるのです。

計画力 時間の使い方 息抜きの仕方 決められた時間内に終わらせる力
自己分析力 健康管理 生活リズムを守る力 がまん 忍耐力 コミュニケーション力
負ける経験 ひとつ成長する実感 達成感 プラス思考(ポジティブ変換)...

そしてこれらの力は、「受験」のみならず、**人生において「生き抜く力」につながっていきます**。ですから「受験」を意識して勉強することは、中3になってからではなく、ぜひ中1、中2のうちに始めて欲しいと思います。中3で「部活動を引退したら本気で頑張る。」というお子さんがいますが、部活動を引退したら頑張るのはあたり前で、その言葉が「今勉強しない」ことの言い訳になってはいないでしょうか。まずお子さんが為すべきは「**今、行動を開始すること**」です。学習法についてはさまざまあると思いますが、誰にでも合う「王道」はありません。やっているうちに自分に合う学習法を見つけていけば良いのです。

では保護者は何をすべきか。お願いしたいことは次の3つです。

①学習に取り組むための環境づくり ②規則的な生活 ③適度な声掛け・励まし

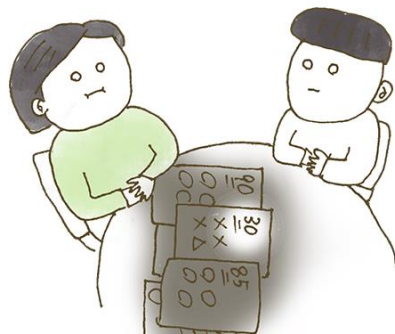
落ち着いて学習に取り組むためには①は必須です。集中を妨げる原因、例えば「近くにTVやゲーム、スマホなどがある」、「毎週末出かける予定が入っている」、「家族が勉強の価値を否定する発言をする(『勉強しても将来役に立たない』など)」、「家族間の喧嘩が多い」…このようなことは避けたいところです。図書館などで学習するのは一時しのぎに過ぎません。自宅で学習に集中できる環境を整えてください。

②については「早寝・早起き・朝ごはん(をきちんと食べる)」などの規則的な生活リズムが確立されている生徒の方が学力が高いという文科省の調査結果も出ています。睡眠と栄養を正しくとれるようサポートをお願いします。

また③について、「中学の学習内容は難しく、親が聞いても分からない」、「子どもに任せた方が自主性が育つ」などと言って放任してしまうご家庭もあるようですが、これは間違い。学習習慣は、中学生になって突然身につくものではありません。小さい頃から学習の価値ややり方を親が伝え、そばでサポートを続けた結果、徐々に自走できるようになるのです。他人と比較したり、ペナルティを与えたりするのはNGですが、保護者の立場から受験や勉強についてお子さんに語ってください。「見守られている」、「応援されている」とお子さんが思えることがやる気につながると思います。

次号に続きます。でもその前に、まず「今、行動を開始すること」です。

お母さん改善点
分かっちゃった…



で
し
よ
う
ね